芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年九月度　入選句（投稿総数千八百七十一句・小中学投句数千百八十三句）

選者　遠藤　幹郎

特選

かき氷シロップかけて富士山だ　大垣市　安藤　奏名多(小五)

ガラスの器にてんこもりに削った氷をもったかき氷。それに何色のシロップをかけてもらったのでしょう。赤色の氷イチゴ、黄色の氷レモン、緑色の氷メロン…？。それが、“富士山だ”と詠んだのが見事です。甘いシロップのかかったカキ氷、夏の暑さの中に、涼しさをかきたてる氷菓に舌鼓を打っている作者の姿が浮んできます。季語は、「かき氷」(夏)

あきまつりやたいたくさんいいにおい　大垣市　村上　漸(小三)

秋祭りを迎えると、神社や街中に蛸焼や鯛やき、焼きそば…などを売る屋台がずらりと並びます。その屋台の店先から、いろいろ、おいしそうなにおいがしてきたのですね。どれにしようか、あれはいくらかなどと屋台の品を見て回る様子が、目に浮ぶようです。年に一度の秋祭りの華やいだ様子が想像できる佳句です。季語は、「秋祭り」(秋)。

坂道でどんぐりたちが徒競走　大垣市　大谷　夏鈴(小五)

“徒競走”(ときょうそう)は、かけっこのことですね。この言葉が、とてもよく生きた一句です。秋になると、神社や山や森などにあるカシやクヌギ、ナラなどの木々は木の実をつけ、落ちてきます。坂道をコロコロと転がってくるどんぐりたちが、まるで、かけっこをしているようだと言うのです。実に愉快な一句です。運動会シーズンと響き合った佳句が生まれました。季語は、「どんぐり」(秋)。

秀逸

たおれてもまたおきあがるひまわりさん　大垣市　川瀬　里茉(小二)

しゃちほこがみはりしている炎天下　大垣市　田中　一雅(小六)

とった桃おじいちゃん家におすそわけ　大垣市　竹中　亜優香(小六)

うんどう会おうえんしてる母の声　大垣市　吉岡　優凪(小四)

下校道入道雲がせまってる　大垣市　髙木　紳吾(小五)

家族がね笑顔になれるくりごはん　大垣市　堤　穂乃香(小五)

遊ぼうとわたしをくすぐるねこじゃらし　大垣市　古田　晏寿(小五)

ひまわりの種がぎっしりたれさがる　大垣市　川瀬　大志(小五)

かささしてぼんちょうちんに火を灯す　大垣市　北島　実香(小四)

スーパーで買ってくれよとサンマの目　大垣市　安田　匡宏(小四)

入選

剣道の練習の後かき氷　大垣市　古野　紗衣(小六)

おとうさん会話がはずむ夕ごはん　大垣市　かじ　ひろと(小四)

友達も運動会はてきになる　大垣市　村おりょうや(小四)

麦茶飲みのどの中を走ってく　大垣市　田中　志帆(小五)

おじいさん田植えおつかれどろまみれ　大垣市　大橋　朱那(小五)

まつたけをまるごとひとつたべたいな　大垣市　高木　康作(小三)

すすきのほ風にゆられておどってる　大垣市　石司　淳果(小五)

宝物たくさんできた夏休み　大垣市　吉田　ひびき(小五)

応えんの声がひびくよ運動会　大垣市　大橋　一輝(小五)

お月さま空からみはるパトロール　大垣市　志知　夕里菜(小四)

入選

会津からいなわしろ湖へ夏の雲　大垣市　中村　光里(小六)

おじいちゃん大きいスイカもってきた　大垣市　橋本　未伶(小六)

けんめいに体ふるわせせみの声　大垣市　森　喬亮(小六)

あじさいはお花がいっぱい大家族　大垣市　荒田　みのり(小五)

あさがおははやおきだけどすぐひるね　大垣市　近澤　倫晃(小五)

とりたてのきゅうり一ぽんまるかじり　大垣市　内田　歩弥(小五)

バレーボールアタックきめたあせがとぶ　大垣市　平田　心音(小五)

一日中プールに行って真っ黒だ　大垣市　村上　暢(小五)

草むらでりんりん鳴きだすすずむしが　大垣市　日比　柊斗(小四)

どんぐりがぼうしをかぶって落ちてきた　大垣市　豊田　礼麻(小四)

選者吟

名月や雲一つなき輪中村　幹郎